



THE SUCCESSFUL TRADE FAIR IN OSAKA

力を集め、勢いに



特集—インテックス大阪

1985年、大阪市の市制100周年を記念して、日本初の国際見本市会場「インテックス大阪」が誕生した。技術や情報が集結するビジネス交流の拠点として、経済振興の一翼を担っている。



大阪経済の旗手として ビジネス拡大のためのベースキャンプ



1985年、インテックス大阪で最初に開催されたのは、繊維産業で栄えた大阪らしく、工業用の大型縫製機械の見本市だった。商業都市・大阪において見本市の需要は高く、設立から様々な分野の見本市や展示会が開催してきた。現在、年間180件ほどの催事に利用されている。

同じ大都市でも、東京に大企業の本社が集中するのに対し、大阪は中小企業の占める割合が高く「中小企業のまち」といわれる。大企業は、単独で新技術や商品の発表会としての展示会を開催し、独



自に取引先を求めて海外展開を進めるが、中小企業にとって多くの関係者が集まり直接取引に結び付く商談会としての見本市に出展・参加することがより現実的で効率的といえる。

「近年見本市会場の用途は多様化し、コンサートや試験会場など様々な催事にご利用いただいている。それでも私たちが創設時から変わらず持つ使命は、関西の経済振興と発展です。関西エリアの企業や文化の発信力は東京圏と比較すると、強力なものではありませんが、一つひとつが個性的です。個々の力を集結して、それぞれが魅力を発揮することで大きな強みとなる。そのためのベースキャンプとして、また関西の企業が海外取引するためのハブとしての役割を、インテックス大阪が果たしていきたいと思っています」と、運営にあたる大阪国際経済振興センターの永井理事長は話す。

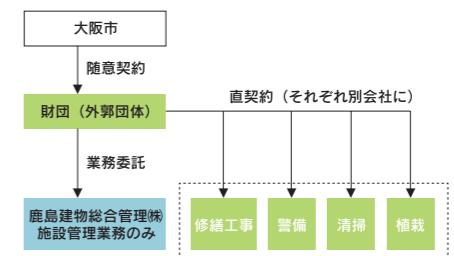
運営受託方式の変更

インテックス大阪は、設立当初から大阪市の外郭団体である大阪国際経済振興センターが施設の運営管理を行っていたが、2013年度に4年間の施設賃貸借方式の事業者公募が行われることになった。それを機に、大阪国際経済振興センターは、一般財団法人格を取得して、施設管理を

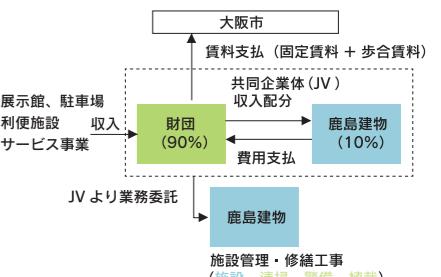
委託していた鹿島建物と共同事業体を形成し、改めてインテックス大阪の運営管理を大阪市から受託することになった。共同事業体での運営は、財団の約30年にわたる運営実績と、鹿島建物の施設管理の経験を活かし、より柔軟に大阪経済振興に寄与するものになると期待が寄せられた。

インテックス大阪の運営受託方式

【以前の運営体制】



【2013年度からの運営体制】





新しい船出

経済振興のための催事

インテックス大阪は、大阪の経済振興という使命をより積極的に果たすため、企画部門を立ち上げた。

「2013年の運営体制の変更は、私たちが『市の施設』という大きな括りから経営的に自立することだと考え、強い組織になろうと意識的に活動しました」と、大阪国際経済振興センターの葛本相談役は話す。

攻めの経営へ舵を切るために、提案型のきめ細かい営業活動をし、自主企画展

や経済波及効果の高い見本市の誘致などを積極的に行つた。

その成果の一つが、2014年10月に開催された自主企画展「アジア・フードショー 2014」である。これは、関西の重要コンテンツである「食」にスポットを当てた仕入商談展で、関西空港がアジアの格安航空会社の拠点であることから、今後関西とアジア諸国との交流が盛んになることを見越して企画された。期間中は、目新しいアジア食材を探す業者

や、通訳を介して商談をする人々の熱気にはあふれ、進取の気性に富む商都・大阪ならではの盛況を博した。

インテックス大阪の最大の強みは、国際見本市会場として日本で最も長い歴史を重ねて培った国際的なネットワークと、イベント運営の柔軟性である。その強みを活かして関西経済振興の中心的役割を担い、今後多くの企業を盛り立てサポートしていく。



アジア・フードショー 2014

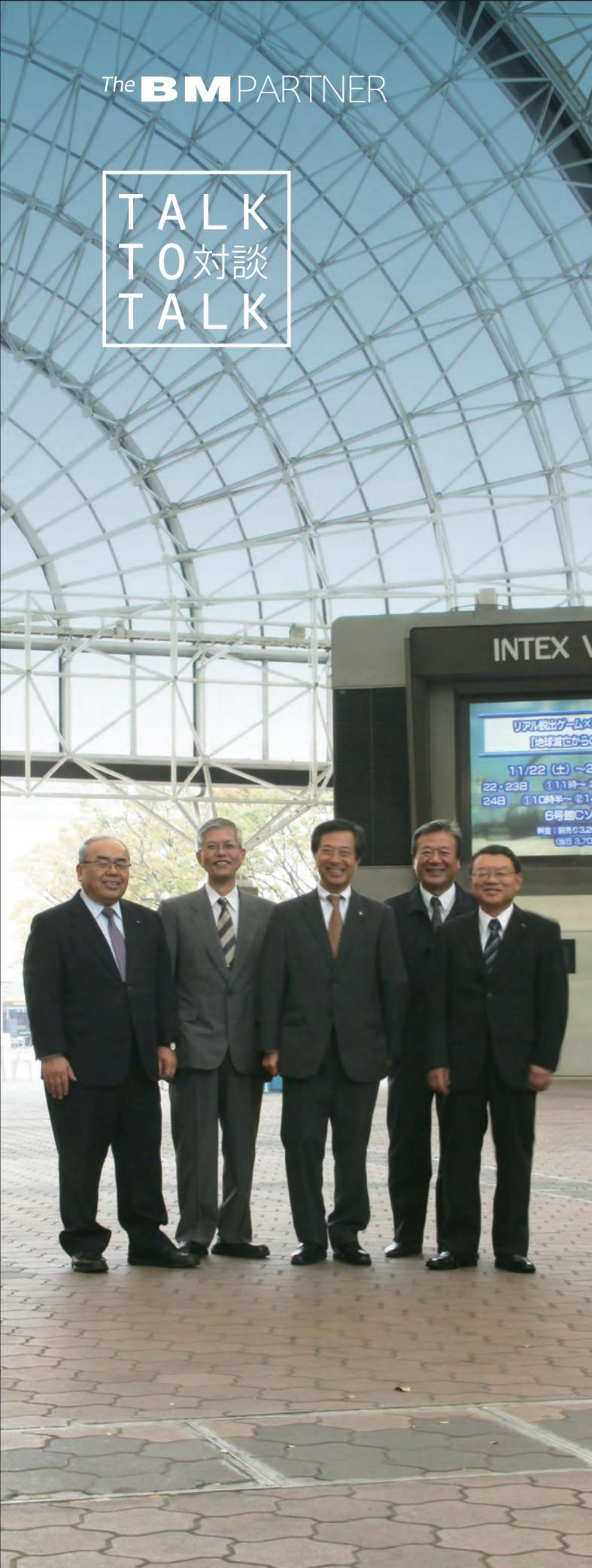
日本で唯一の「アジア」に特化した仕入商談展。フィリピン、台湾、インドネシア、トルコ、ベトナム、マレーシアなどアジア13カ国から多彩な食品・食関連サービスが、インテックス大阪に集結した。3日間の期間中、特に注目を集めたのが、今後日本での需要増加が予想されるイスラム圏の食文化、ハラール食※である。イベントでは、ハラール和食の実演や、ハラール食を学びビジネスチャンスを掴むことを主題としたセミナーなどが行われ、多くの来場者が賑った。

※ハラール食

ハラールとは、イスラム法においての合法を意味する。ハラール食は、食肉処理や保管・運搬法を含めて合法とされる食材や調味料を使い、戒律に従つてつくられる食事。



TALK
TO 対談
TALK



共に攻めの体制へ

漕ぎ出した新しいインテックス大阪

田中 アジア・フードショーが盛況のうちに閉幕しましたね。

理事長 永井様 そうですね。新体制になってほぼ初となる大々的な自主企画だったので不安はありました。多くの来場者にお越しいただき、出展企業からも良い評価をいただけました。この経験をベースに引き続き自主企画に力を入れていきたいですね。

専務理事 野田様 インテックス大阪が新体制になってから1年半が経過しましたが、これらのイベントの成功で、対外的にも新しい船出を印象付けられたのではないでしょうか。

相談役 葛本様 催事を新たに立ち上げることは組織にとってかなりの体力が必要となります。共同事業体を形成したことで、施設のハード面は『餅は餅屋』ということで鹿島建物さんに委ねることができ、私たちが催事企画の方に専念できることもこの結果につながりました。

高め合うための改革

田中 私共としてもこれまでの施設管理者から、インテックス大阪のビジネスパートナーになったという意識の転換を図り、共同事業体を組んで良くなつたと思っていただけるよう、一丸となって業務にあたっています。

小沢 当社からの長期修繕計画や、修繕工事の提案を前向きにご検討くださることも、職員の士気向上につながっています。

野田様 インテックス大阪という建物について誰よりも知り尽くしているのは田中統括所長をはじめ、鹿島建物の方々です。長年悩みの種であった夏季の会場内温度の上昇に対しても、屋根の遮光断熱塗装という費用対効果の高い提案をしていただきました。それによって、今年の夏、室温が平均で2~3℃下がったことは、共同事業体を組んだことによる成果の一つだと思っています。



大阪国際経済振興センターの企画部門



管理事務所では1日3回朝礼・昼礼・夕礼を実施している

行い、無駄を徹底的に排除することで経費削減もできました。

野田様 そのおかげで、次の課題に対してもっと前向きに取り組むことができます。とても良いサイクルが生まれているのではないかでしょうか。

永井様 今後とも綿密なコミュニケーションで、より一層の改革を進めていきましょう。

小沢・田中 よろしくお願いします。



写真右より

一般財団法人大阪国際経済振興センター
専務理事 野田 典男様

一般財団法人大阪国際経済振興センター
相談役 葛本 惠英様

一般財団法人大阪国際経済振興センター
理事長 永井 哲郎様

鹿島建物総合管理㈱
関西支社
支社次長 小沢 良輔

鹿島建物総合管理㈱
インテックス大阪 管理事務所
統括所長 田中 正昭